

小型RPF燃焼炉 関市洞戸で竣工

マルエイと
秋田屋フーズ
関係者ら祝う



RPFが燃料の回転型燃焼炉＝関市洞戸飛瀬、秋田屋フーズ洞戸工場

総合エネルギー事業を展開するマルエイ（岐阜市入舟町、澤田栄一社長）が食品加工の秋田屋フーズ洞戸工場（関市洞戸飛瀬）に設置した小型RPFボイラーの竣工式が24日、同工場であり、関係者が設備の完成を祝った。

50平方メートルに整備。廃プラスチックや古紙が主原料の燃料RPFを100ト貯蔵できる燃料ヤードのほか、回転型燃焼炉、ボイラー、制御盤がある建屋を建設した。投資額は約4億円。

秋田屋本店関連会社の秋田屋フーズは、ゼリー飲料を製造するための熱源とし

てボイラーから発生した蒸気をマルエイから購入する。重油が燃料のボイラーに比べて年間で約1500トの二酸化炭素を削減できる。

式では、秋田屋本店の中村源次郎社長が「小型RPFボイラーは（国連が掲げ

る持続可能な開発目標の）SDGsに適合するシステム。設置は日本初で、ここから全国や世界に発信して地球のために寄与したい」とあいさつ。マルエイの澤田社長は「画期的なシステムを導入できた」と喜んだ。